課 題

【 算数 】記述での表現が苦手

手立て

対話を通して表現力の向上を図る

具体例

先生の話す時間が長ければ長いほど、児童が思考し表現する時間が減ります。
児童が考え、表現する時間を確保するために、先生が話す時間の縮減を図りましょう。

POINT① **事前チェック** **「先生が話す時間」を減らすために**

○チェックポイント
- 児童の発言を復唱していないか。
- 児童が単語で答えられるような発問ばかりしていないか。
- 授業の大事なポイントを先生が話をしていないか。

①先生が復唱すると、児童は「先生の分かりやすい説明を聞けばいい」と友達の発言をしっかり聞く必然性や必要感がなくなります。
②児童に単語で答えられるような質問をしても、児童の表現力は伸びません。主語・述語を適切に用いて表現ができる発問を心がけましょう。
③大事なことは、「児童が発見し、児童の言葉で児童同士が伝え合うようにする」ことです。

POINT② **指導改善** **対話を通じて、児童が思考し表現する機会や時間を増やす**

○改善ポイント
- 友達の発言の復唱は、児童にさせる。
- 発問は、思考を揺さぶることができるように吟味し、焦点化する。
- 対話を通して、児童の気付きを大切にする。

①児童の発言の後、先生がすぐに話さず、児童たちに「どう思う？」と投げかけ、友達の話を聞く習慣を身に付けさせるとともに、友達の意見に対して自分の意見をもつように指導しましょう。もし、復唱が必要なときは、「今の考え、もう一度言える人？」などと児童に復唱させましょう。　このような児童と児童の発言をつなぐ取組が、児童の思考し表現する力を育てます。

②例えば1年生の「くりさがりのあるひきざん」ならば、
「どうやって引けばいいでしょうか？」
と聞くだけでなく、
「13－9の9は、どうやって引けばいい？数図ブロックで説明できるかな？」
と、引けない9を焦点化させるとともに、どんな活動をしたらよいのか、児童が見通しをもてるようにしましょう。

③本時の内容で大切なことを先生が説明してしまうと、児童は先生の話を待つようになり、深く考えなくなってしまいます。
自分たちで大切なことに気付いたときは、積極的にその発見を伝えようとします。
この「伝えたい」と思う気持ちが、思考力と表現力を伸ばします。
「伝えたい」と思う「大発見」を児童ができるようにしましょう。